

病虫害情報(第2号)5月予報

令和7年4月28日
神奈川県農業技術センター

病虫害防除部 TEL 0463-58-0333
ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 5月の主な病虫害の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、ナシ、カキ、ウメ、促成トマト、促成・半促成キュウリ、露地トマト、露地キュウリ、ナス、春キャベツ、ネギ、スイカ、カボチャ、メロン】
- II 5月の気象予報と病虫害発生予報の根拠 11
- 農薬を使用する際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
- ※ 農薬に関する情報は、令和7年4月25日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 5月の主な病虫害の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

【水 稲】

病虫害名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
ばか苗病	—	○	【塗沫処理(30ml/乾燥種1kg)】 (予・治) テクリードCフロアブル [浸種前,1回] 7.5倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 100倍
いもち病	—	○	(予・治) ヘルシード乳剤 [浸種前,1回] 7.5倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 100倍
イネシנגレセンチュウ	—	○	【種子浸漬(24時間浸漬)】 (予・治) テクリードCフロアブル [浸種前,1回] 200倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 1,000倍 (予・治) ヘルシード乳剤 [浸種前,1回] 200倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 1,000倍 等 ◆ イネシングレセンチュウ対策としてはスミチオンを使用する。 ◆ もみ枯細菌病を防除対象とする場合は、テクリードCを選択する。 ◆ 種子消毒で使った薬剤の廃液は適切に処理する。
苗立枯病	—	○	(予・治) タチガレエースM粉剤 [は種前,1回] 6～8g/箱 + (予) ダコニール粉剤 [は種前,1回] 15～20g/箱 等
イネミズゾウムシ	—	○	【育苗箱施薬:散布】 アドマイヤーCR箱粒剤 [は種時(覆土前)～移植当日,1回] 50g/箱
ヒメトビウンカ	並	○	プリンス粒剤 [は種時(覆土前)～移植当日,1回] 50g/箱 エバーゴルフフォルテ箱粒剤 [は種時(覆土前)～移植当日,1回] 50g/箱 等 ◆ イネ縞葉枯病(ヒメトビウンカ)に関する号外を令和7年4月4日に発表している。 ◆ ツマグロヨコバイの発生が多い地域では、アドマイヤーCR、エバーゴルフフォルテを使用する。 ◆ 紋枯病、白葉枯病の発生が懸念される場合は、エバーゴルフフォルテを使用する。
ナガエツルノゲイトウ	—	△	【湛水散布】 バッチリLX1キロ粒剤 [移植直後～ルビエ2.5葉期(但し、移植後30日まで),1回] 1kg/10a 等 ◆ 発生している地域では水口にネット等を設置し、侵入を防止する。 ◆ 刈り払いによって断片を周囲に飛散させない様に薬剤散布を中心として防除を行う。 ◆ 特定外来生物に指定されているため、疑わしい雑草を見つけた場合は、最寄りの農協または普及指導部まで連絡する。 ◆ 詳細は、以下の防除対策資料を参照すること。 世界最悪の侵略的植物「ナガエツルノゲイトウ」に警戒を！ https://www.pref.kanagawa.jp/documents/88221/r6nagaeboujo.pdf

【防除要否】◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
【使用時期】「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和7年度・第2号・5月) …………… 神奈川県農業技術センター

【カンキツ】 生育:やや早(足柄地区事務所根府川分室:普通温州)

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
灰色かび病	—	○	(予) フロンサイドSC [30日,1回] 黒点病:2,000倍 灰色かび病、そうか病:2,000～2,500倍
黒点病	—	○	(予) イデクリーン水和剤 [—, —] 黒点病、そうか病:400～800倍 + クレフノン [—, —] 200倍
そうか病	やや多	○	(予・治) ストロビードライフフロアブル [14日,3回] 2,000～3,000倍 等 ❖ 灰色かび病は満開～落弁期に防除する。 ❖ そうか病発生園では、フロンサイドを選択する。 ❖ イデクリーンは、マシン油乳剤との混用および14 日以内の近接散布を避ける。
かいよう病 (中晩柑類)	並	○	(予) コサイド3000 [生育期, —] 2,000倍 + クレフノン [—, —] 200倍 (予) ICボルドー66D [—, —] 25～200倍 + アピオン-E [—, —] 500～2,000倍 (予) イデクリーン水和剤 [—, —] 400～800倍 + クレフノン [—, —] 200倍 等 ❖ 温州みかんにも発生する。多発園では、落花期に防除する。 ❖ イデクリーンとICボルドー66Dは、マシン油乳剤との混用および14 日以内の近接散布を避ける。
ミカンハダニ	やや多	○	マシン油乳剤(97%, 98%) 等 ❖ 冬期に防除しなかった園は、春期に必ず防除する。 ❖ マシン油乳剤は商品によって使用基準が異なる。
ミカンナガタムシ	—	△	❖ 被害の確認される園では、成虫発生源となるため、被害の激しい樹を伐採し、園外で適切に処分を行う。 ❖ 詳細は令和6年12月20日発表の「病害虫発生予察注意報 第3号」を参照する。 ❖ 成虫発生後の防除について、令和7年4月16日発表の「病害虫情報号外第3号」を参照する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ナ シ】 生育:やや遅(生産技術部果樹花き研究課:豊水)

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
黒星病	並	○	(予・治) ファンタジスタ顆粒水和剤 [前日,3回] 3,000～4,000倍 (予・治) ユニックス顆粒水和剤47 [21日,3回] 2,000倍 (予・治) ベルコートフロアブル [14日,5回] 1,500倍 等
アブラムシ類	—	○	ハチハチフロアブル [30日,1回] 2,000倍 チェス顆粒水和剤 [14日,2回] 5,000倍 等
ニセナシサビダニ	—	○	ハチハチフロアブル [30日,1回] 2,000倍 コテツフロアブル [前日,3回] 2,000～3,000倍 等 ❖ ニセナシサビダニが原因とみられる、新梢のモザイク症状が増えているので注意する。
カメムシ類	やや多	△	モスビラン顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍～4,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報 (令和7年度・第2号・5月) …………… 神奈川県農業技術センター

【カキ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
落葉病	並	○	(予) エムダイファー水和剤 [45日,2回] 落葉病:400～650倍 (予・治) ベルクート水和剤 [14日,3回]1,000～1,500倍 等
うどんこ病	－	○	❖ ベルクートは西村早生に薬害を生じるので使用しない。
カキクダ アザミウマ	－	○	モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000～4,000倍 等 ❖ 5月上旬までに防除する。
カキノ ヘタムシガ	－	○	ダントツ水溶剤 [7日,3回] 2,000～4,000倍 等
コナカイガラムシ類	－	○	❖ 5月下旬～6月上旬に防除する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ウメ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
黒星病	－	○	(予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000～3,000倍 (予・治) パレード15フロアブル [前日,2回] 2,000～3,000倍 等
カイガラムシ類	－	○	アプロードエースフロアブル[7日,2回] 1,000倍 ☞アプロードエース は混合剤。総使用回数に注意する。 等
カメムシ類	やや多	△	スカウトフロアブル [前日,3回] 2,000倍 スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報 (令和7年度・第2号・5月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
灰色かび病	並	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, ー:ダクト内投入] 灰色かび病:7.5～15g/10a/日
葉かび病	ー	○	(予・治) ダイアメリットDF [前日,3回] 1,500倍 ☞ ダイアメリットDFは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ロブラール水和剤 [前日,3回] 灰色かび病:1,000～1,500倍 等 ❖ 発病部と枯葉を取り除き、施設外に持ち出し適切に処理する。
うどんこ病	ー	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, ー:ダクト内投入] 15g/10a/日 (予・治) ダイアメリットDF [前日,3回] 1,500倍 ☞ ダイアメリットDFは混合剤。総使用回数に注意する。 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,ー] 300～600倍 (治) ベミデタッチ [前日,ー] 500倍 等 ❖ 近年、うどんこ病の発生が目立つため、病斑が確認される前から予防的に薬剤散布を行う。
アブラムシ類	やや多	○	ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500～5,000倍
コナジラミ類	並	○	モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍
タバココナジラミ	並	○	サンクリスタル乳剤 [前日,ー]
オンシツコナジラミ	並	○	アブラムシ類、コナジラミ類:300倍
アザミウマ類	ー	○	ベミデタッチ [前日,ー] コナジラミ類:500倍 等 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。 ❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。

発生するウイルス病	媒介する害虫
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類
ToCV(トマト黄化病)	
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類
CSNV(トマト茎えそ病)	

- ❖ 施設開口部(出入口、天窓等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。
- ❖ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。
- ❖ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。
- ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。
- ❖ 施設内外の雑草を除去し、収穫終了後は施設を密閉し、蒸し込みで死滅させる。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

マルハナバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤(影響日数の目安):ロブラール水和剤(1日)、ディアナSC(1日)、モスピラン顆粒水溶剤(1日)

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和7年度・第2号・5月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成・半促成キュウリ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例										
❖防除のポイント													
べと病	並	○	(予・治) ライメイフロアブル [前日,4回] 2,000～4,000倍 (予・治) ベトファイター顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000～3,000倍 ☞ ベトファイターは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ピシロックフロアブル [前日,3回] 1,000倍等 ❖ 風通しを良くし、適切な施肥管理を行う。										
うどんこ病	並	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期,ー] 1,000～2,000倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] 2,000倍 ☞ パンチョTFは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) パルミノ [前日,3回] 2,000倍等										
アブラムシ類	やや多	○	アファームエクセラ顆粒水和剤 [前日,2回] ミナミキイロアザミウマ:1,500倍 ☞ アファームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。 ベストガード水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ :1,000～2,000倍 ウララDF [前日,3回] アブラムシ類:2,000～4,000倍、コナジラミ類:2,000倍 コテツフロアブル [前日,3回] ミナミキイロアザミウマ:2,000倍 ベネビアOD [前日,3回] 2,000倍 パルミノ [前日,3回] コナジラミ類:2,000倍等 ❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。 <table border="1"><tr><th>発生するウイルス病</th><th>媒介する害虫</th></tr><tr><td>CMV等(モザイク病)</td><td>アブラムシ類</td></tr><tr><td>CCYV(退緑黄化病)</td><td>コナジラミ類</td></tr><tr><td>BPYV(キュウリ黄化病)</td><td>コナジラミ類</td></tr><tr><td>MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td><td>アザミウマ類</td></tr></table> ❖ 施設開口部(出入口、天窓等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを 展開し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレ ッド)はより高い防虫効果が期待できる。 ❖ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底す る。 ❖ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。 ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど 適切に処分する。 ❖ 収穫終了後は施設を密閉し、蒸し込みで死滅させる。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	コナジラミ類	MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPYV(キュウリ黄化病)	コナジラミ類												
MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												
コナジラミ類	－	○											
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	並	○											

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和7年度・第2号・5月) …………… 神奈川県農業技術センター

【露地トマト】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例												
			❖防除のポイント												
疫病	—	○	(予) Zボルドー [—, —] 400～600倍 (予) ダコニール1000 [前日, 4回] 1,000倍 (予・治) ランマンフロアブル [前日, 4回] 1,000～2,000倍 等 ❖ 降雨により土壌中の病原菌が土粒とともにね上がって感染するので、株元にマルチを敷く。												
アブラムシ類	やや多	○	【育苗期後半～定植時:粒剤施用又は灌注】 プリロソ粒剤オメガ [育苗期後半～定植時, 1回:株元散布] 2g/株 ベリマークSC [育苗期後半～定植当日, 1回:灌注] 原液25mLを10～20Lに希釈/400株 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 【定植時:粒剤施用】 モスピラン粒剤 [定植時, 1回:植穴土壌混和] アブラムシ類、コナジラミ類: 1g/株 【定植後:散布】 モベントフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 ベストガード水溶剤 [前日, 3回] 1,000～2,000倍 マツチ乳剤 [前日, 4回] アザミウマ類: 1,000～2,000倍、コナジラミ類: 2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日, 3回] □ アブラムシ類、コナジラミ類: 4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, —] アブラムシ類、コナジラミ類: 300倍 ベミデタッチ [前日, —] コナジラミ類: 500倍 等 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。 ❖ 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、育苗期から定植後の害虫防除を徹底する。 <table><tr><th>発生するウイルス病</th><th>媒介する害虫</th></tr><tr><td>CMV等(モザイク病)</td><td>アブラムシ類</td></tr><tr><td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td><td>コナジラミ類</td></tr><tr><td>ToCV(トマト黄化病)</td><td></td></tr><tr><td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td><td>アザミウマ類</td></tr><tr><td>CSNV(トマト茎えそ病)</td><td></td></tr></table> ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処理する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															
コナジラミ類	—	○													
アザミウマ類	—	○													

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和7年度・第2号・5月) …………… 神奈川県農業技術センター

【露地キュウリ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント										
べと病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 [前日,3回] 600～800倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [前日,3回] 600～800倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 (予) ダコニール1000 [前日,12回] 1,000倍 (予・治) ランマンフロアブル [前日,4回] 1,000～2,000倍 等 ❖ 土のはね返りを防ぐためマルチを敷く。 ❖ 草勢の衰えは発生を助長させるので、適切な草勢管理に努める。										
うどんこ病	—	○	(予) ダコニール1000 [前日,12回] 1,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,7回] 2,000倍 等 ❖ 窒素肥料の多用は発生を助長するので、適切な施肥管理を行う。										
アブラムシ類	やや多	○	【育苗期後半～定植時:粒剤施用又は灌注】 ブリロッソ粒剤オメガ [育苗期後半～定植時,1回:株元散布]2g/株 ベリマークSC [育苗期後半～定植当日,1回:灌注] アブラムシ類:原液25mlを2～20Lに希釈/400株 コナジラミ類、アザミウマ類 :原液25mlを10～20Lに希釈/400株 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 【定植時:粒剤施用】 モスピラン粒剤 [定植時,1回:株元散布] アブラムシ類:0.5～1g/株 アドマイヤー1粒剤 [定植時,1回] アブラムシ類、アザミウマ類 :1～2g/株:植穴又は株元土壌混和 コナジラミ類:2g/株:植穴土壌混和 【定植後:散布】 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 ベストガード水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ :1,000～2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500～5,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,ー] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 等 ❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。 <table><tr><th>発生するウイルス病</th><th>媒介する害虫</th></tr><tr><td>CMV等(モザイク病)</td><td>アブラムシ類</td></tr><tr><td>CCYV(退緑黄化病)</td><td>コナジラミ類</td></tr><tr><td>BPYV(キュウリ黄化病)</td><td></td></tr><tr><td>MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td><td>アザミウマ類</td></tr></table> ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処理する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)		MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPYV(キュウリ黄化病)													
MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												
コナジラミ類	—	○											
アザミウマ類	—	○											

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報 (令和7年度・第2号・5月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ナ ス】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
アブラムシ類	やや多	○	【育苗期後半～定植時:粒剤施用又は灌注】 プリロソ粒剤オメガ [育苗期後半～定植時,1回:株元散布]2g/株 ベリマークSC [育苗期後半～定植当日,1回:灌注] 原液25mLを10～20Lに希釈/400株 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 【定植時:粒剤施用】 ダントツ粒剤 [定植時,1回:植穴処理土壌混和] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 【育苗期～定植後:散布】 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 ベストガード水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ :1,000～2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,ー] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍
コナジラミ類	ー	○	
アザミウマ類	ー	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【春キャベツ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
コナガ	並	○	アファーム乳剤 [前日,3回] 1,000～2,000倍 ディアナSC [前日,2回] 2,500～5,000倍
アブラムシ類	やや多	○	ウララDF [前日,2回] 2,000～3,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 [3日,3回] 2,000～3,000倍

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和7年度・第2号・5月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ネギ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
さび病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 [14日,3回] 600倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [14日,3回] 600倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 等
黒腐菌核病	—	○	【育苗期後半～定植時:灌注】 (予・治) パレード20フロアブル [育苗期後半～定植当日,1回:灌注] 100倍 セル成型育苗 トレイ1箱又はペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌 約1.5～4L)当り0.5L 等 ❖ 病斑上に形成される微小菌核が次作の伝染源となる。発病残渣はほ 場外で処理する。
ネギアザミウマ	—	○	【育苗期後半～定植時:灌注】 ジュリボフロアブル [育苗期後半～定植当日,1回:灌注] 200倍 セル成型育苗 トレイ1箱又はペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌 約1.5～4L)当り0.5L 【定植時:粒剤施用】 プリロツソ粒剤オメガ [前日,3回:株元散布] 6kg/10a ☞ プリロツソ粒剤オメガの有効成分シアントラニプロロールは、 定植時までの処理は1回以内であることを注意する。 ベストガード粒剤 [定植時,1回:植溝処理土壌混和] 6kg/10a 【生育期:散布】 モスピラン顆粒水溶剤 [7日,3回] 2,000倍 アフームエクセラ顆粒水和剤 [7日,3回] 1,000倍 等 ☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。

【防除要否】◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

【使用時期】「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

▼三浦半島地区野菜▼

【スイカ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
つる枯病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 [7日,7回] 400～600倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [7日,7回] 400～600倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。
炭疽病	—	○	(予) ダコニール1000 [3日,5回] つる枯病:700～1,000倍、炭疽病:700倍 (予・治) ベルクート水和剤 [前日,4回] 1,000倍 (予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000倍 等
アブラムシ類	並	○	モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] 2,000～4,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍
アザミウマ類	—	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 等
ハダニ類	—	○	マイトコーネフロアブル [前日,1回] 1,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等

【防除要否】◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

【使用時期】「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【カボチャ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
疫病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 [21日,2回] 600倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [21日,2回] 600倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 (予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [7日,3回] 1,000倍 等 ☞ プロポーズ顆粒水和剤は混合剤。総使用回数に注意する。
うどんこ病	—	○	(予) イオウフロアブル [発病前～発病初期,一] 500倍 (予・治) ベルクート水和剤 [7日,4回] 1,000～2,000倍 (予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等

【防除要否】◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

【使用時期】「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和7年度・第2号・5月) …………… 神奈川県農業技術センター

▼三浦半島地区野菜▼

【メロン】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例
◆防除のポイント			
つる枯病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 [7日,5回] つる枯病、べと病:400～600倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [7日,5回] つる枯病、べと病:400～600倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。
べと病	—	○	(予) ダコニール1000 [3日,5回] つる枯病:1,000倍、べと病:700～1,000倍、 うどんこ病:700倍
うどんこ病	—	○	(予) イオウフロアブル [発病前～発病初期, —] うどんこ病:500～1,000倍 (予・治) ランマンフロアブル [前日,4回] べと病:1,000～2,000倍 (予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] つる枯病、うどんこ病:2,000倍 等
アブラムシ類	並	○	モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] アブラムシ類:8,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍
コナジラミ類	—	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 等
アザミウマ類	—	○	
ハダニ類	—	○	マイトコーネフロアブル [前日,1回] 1,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

▼三浦半島地区野菜共通▼

ミツバチへの影響

▶ 影響のある剤(影響日数の目安):ペンコゼブ水和剤(2～3日)、スピノエース顆粒水和剤(2日)、スコア顆粒水和剤(1日)、プロポーズ顆粒水和剤(1日)、モスピラン顆粒水溶剤(1日)、マイトコーネフロアブル(翌日の)、モベントフロアブル(翌日放飼可能)

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和7年度・第2号・5月)

神奈川県農業技術センター

Ⅱ 5月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 5月の気象予報(気象庁 4月22日発表3か月予報)

〈天 気〉

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	20%	40%	40%
降 水 量	30%	40%	30%
日照時間*	30%	30%	40%

*4月17日発表1か月予報による。

(2) 5月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予 報 の 根 拠
		程度	平年比	
水稻	ヒメトビウンカ	少	並	1) 越冬世代虫の密度は平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
カンキツ	そうか病	－	やや多	1) 昨年10月の巡回調査では、葉での発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並、日照量は平年並の予報。(±)
	かいよう病(中晩柑類)	少	並	1) 巡回調査では、越冬病斑の発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、越冬病斑の発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ミカンハダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 県予察ほ(根府川)では、慣行防除区での発生は平年よりやや少ない(－)、無防除区での発生は平年より多い(＋)。 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ナシ	黒星病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生は平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
カキ	落葉病	－	並	1) 昨年10月の巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
果樹全般	カメムシ類	－	やや多	1) 越冬調査では、落葉内のチャバネアオカメムシ成虫の越冬数は平年並(±)、カンキツ樹冠内のツヤアオカメムシ成虫の越冬数は平年より少ない(－)。 2) フェロモントラップへの誘殺数は、伊勢原と南足柄は平年よりやや多く(＋)、県予察ほ(根府川)では平年より多い(＋)。 3) 予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺数は、伊勢原、山北、県予察ほ(上吉沢)で平年並(±)、県予察ほ(根府川)で平年より多い(＋)。 4) 予察灯へのツヤアオカメムシの誘殺数は、山北と県予察ほ(上吉沢)で平年並(±)、伊勢原と県予察ほ(根府川)で平年より多い(＋)。 5) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病虫害情報

(令和7年度・第2号・5月) ・・・・ 神奈川県農業技術センター

作物名	病虫害名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
チャ	もち病	少	並	1) 昨年9月の巡回調査では、発病は平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発病は見られず発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ハマキムシ類	少	やや多	1) フェロモントラップの誘殺数は、山北で平年より多く(+)、県予察ほ(寸沢嵐)では平年並(±)。 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	カンザワハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	チャノミドリヒメヨコバイ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	チャノキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ツマグロアオカスミカメ	少	並	1) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	チャノホソガ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 3) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年より多い。(+) 4) フェロモントラップの誘殺数は、山北で平年より多く(+)、県予察ほ(寸沢嵐)で平年並(±)。 5) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(令和7年度・第2号・5月) ・・・・ 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成トマト	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	タバココナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
促成・半促成キュウリ	べと病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
野菜類全般 (三浦半島地区除く)	アブラムシ類	－	やや多	1) 巡回調査では、春キャベツ(横浜・藤沢地区)での発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への有翅アブラムシの飛来数は、平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
春キャベツ (横浜・藤沢地区)	コナガ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) フェロモントラップ(横浜)への誘殺数は、平年よりやや多い。(＋) 3) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

▼三浦半島地区野菜▼

野菜類全般	アブラムシ類	－	並	1) 巡回調査では、春キャベツ(三浦半島地区)で発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への有翅アブラムシの飛来数は、平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
-------	--------	---	---	---

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

(別表)
耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

★カンキツ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
 - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
 - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

★ナシ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
 - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
 - 単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合:1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
 - 単剤あるいはQoI剤他との混用の場合:1年2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤の場合:1作2～3回

★ウメ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー)
 - 単剤あるいはその他殺菌剤との混用の場合:1年2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤の場合:1作3回

★チャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロボーズ、バトファイター)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(サブロー、スコア、トリフミン)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス、ネクスター、パレード20)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回

★ナス★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

★スイカ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤(シグナム)の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用、混合剤(シグナム)の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロボーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(マネージ)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

★カボチャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ)の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(フェスティバルC、プロボーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

★メロン★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用、混合剤の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロボーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(ルビゲン)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回